一般財団法人京都ユースホステル協会

2013 年度 事業報告書

期間:：2013.4.1－2014.3.31

一般財団法人 京都ユースホステル協会は
新しい旅と、旅する青少年の健全な成長を応援します。

〒616-8191　京都市右京区太秦中山町29　宇多野YH 内
TEL：075-462-2312　　FAX：075-462-2289
http://www.yh-kyoto.or.jp / E-mail：kyh@yh-kyoto.or.jp

目次

はじめに …… 2
目標達成状況 …… 3
事業概況：ユースホステル活動および関連事業
Ⅰ．ユースホステル活動 …… 4
Ⅱ．ユースホステル関連活動 ……5
事業概況：指定管理事業
Ⅰ．宇多野ユースホステル ……6
Ⅱ．天橋立ユースホステル ……7

財務状況 ……10
別紙：
公益目的支出計画実施報告書
2013 年度事業別詳細資料

はじめに

京都ユースホステル協会では、世界とのつながりを活かした訪日外国人旅行者の増加に対応する他、地域と連携しながら、その資源を活かした魅力的な旅の体験やプログラムづくりなどの実行を通して、変化に対応できる運営や事業モデルの確立に取り組んでまいりました。

また、持続可能な組織運営や財政の安定等にも取り組み、固定経費の削減や機動的連携による組織のコンパクトで効率的な運営を進めてまいりました。

2013年度は、金融緩和による円安や景気回復への期待感、訪日外国人1,000万人達成、また、和食のユネスコ無形文化遺産登録や海の京都の取組みなどが、当ユースホステル協会の事業や施設運営に好影響をもたらし、宇多野ユースホステル、天橋立ユースホステルを合わせた宿泊実績が、39,791人（前年度比2．54％増）となり、府下の全ユースホステルでも利用者の増加が見られました。

その他、当初計画でも掲げておりました世界との連携におきましては、国際ユースホステル連盟が取組みを進めているユースホステル運営の質を高める品質マネージメントシステム（HI-Q）への日本からの初登録や青少年等を対象にしたユースホステルの国際グループ予約システムへのアジアからの初参加などを実現しました。

こうした取組みと合わせて、地域との連携や資源を活かし、さまざまな案内人が企画や運営にも関わり、地域の魅力を紹介する「まいまい京都」や「ここよみ」、若者の国際的な旅の体験を紹介し、応援する「旅days」などの事業にも継続的に取組み、活動を支援してまいりました。

一方、こうした事業活動に比べユースホステルの会員数については、減少が続いており、効果的な対策が見出せず厳しい状況にある他、天橋立ユースホステの築 50 年が経過し、施設の老朽化が進む中、宮津市の担当課とも今後の施設運営や改修について意見交換を行っておりますが、今後も継続して取り組んでいかなければならない課題となっております。

そして、昨年発生しました食中毒の再発防止については、食材や調理、衛生管理の徹底を図るなど、食の安心、安全への信頼回復に向けた取組みを継続的に行ってまいりました。

こうした取組みや成果、課題を踏まえて、今後も更なる事業の開拓や運営の改善、地域との連携を深め、施設や事業の充実、実績の向上に取り組んでまいりますので、これからもご支援、ご協力をお願いいたします。

業務執行理事　髙田　光治

目標達成状況

Ⅰ．重点目標

1）機動的組織の定着

運営スタッフが複数の業務や仕事に携わり、他の業務を補完しながら取組みを進めるなど、効率化や固定経費の削減にも継続して取り組みました。

2） 社会ニーズに応え続けるユースホステル活動の構築

地域をベースに活動の機会を求める人材や活動する団体等と連携し、特色や魅力を持った「まいまい京都」や「旅days」、「エブリディ・ワン」や「ここよみ」などの事業や取組みを充実し、旅行者や地域のニーズにこたえる取り組みを行いました。

Ⅱ．数値目標

(1)宇多野ユースホステル宿泊者数

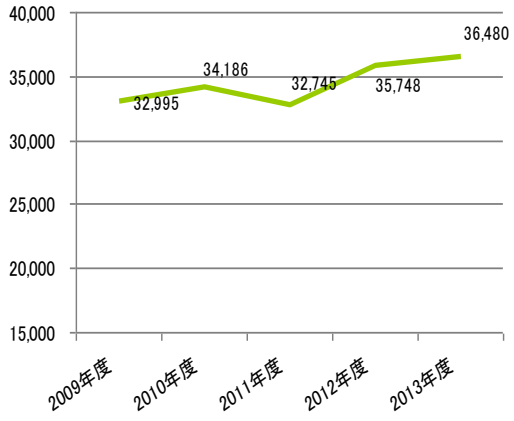
■宿泊者数:36,410名 （目標数:36,000 名）

■国際ユースホステル連盟利用者満足度評価:

“Most Comfortable 部門” で2位受賞

“Most Friendly 部門”で 5 位獲得

（目標:“Most Comfortable & Most Friendly 部門”のダブル受賞）

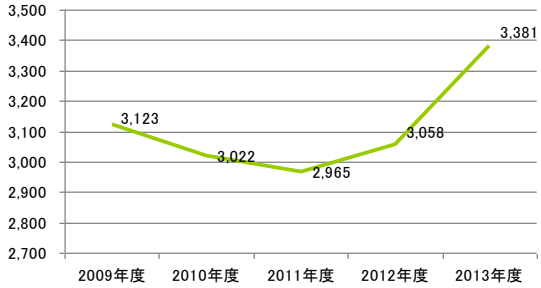


(過去4年間の推移)

(2)天橋立ユースホステル宿泊者数

■宿泊者数:3,381名 （目標数:3,300 名）

■外国人宿泊者:561名 （目標数: 480 名）

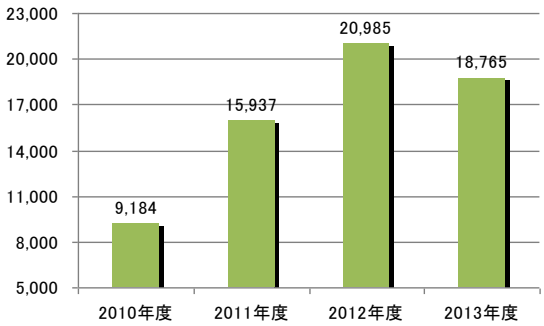


(3)イベント参加者数

■延参加者数:18,765名 （目標数:延12,000 名）

■メールマガジン登録者数:3,600名

（目標数:5,000 名）



(過去4年間n推移)

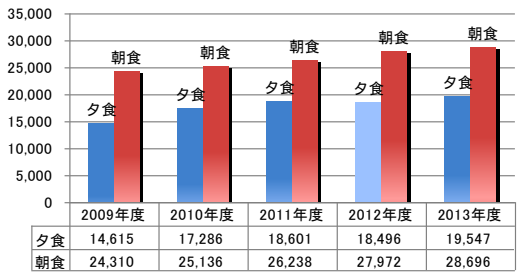
(4)食事提供数

夕食摂取数:19,547食 （目標数:19,050 食）

朝食摂取数:28,696食 （目標数:29,690 食）

■アンケート満足度評価:夕食 93% 朝食 95%

（目標値:4.0 点以上 ※満点は 5 点）



	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
夕食	14,615	17,286	18,601	18,496	19,547
朝食	24,310	25,136	26,238	27,972	28,696

事業概況:ユースホステル活動および関連活動

Ⅰ. ユースホステル活動

(1)事業分野別目標と達成状況

■プラットフォーム型（事務局型）事業構造の構築と試行

外部機関と連携をしながら旅やＹＨの魅力を紹介する下記の事業を実施しました。

事業名	協会の役割
世界をひろげるトラベルフェスタ「旅 days2013」	新規実行委員会を設立、企画運営のスーパーバイズと外部へのＰＲや補助金申請等対外的な渉外活動を担いました。
エブリデイワン	外部協力者で運営をする方式への転換を図りました。外部協力者の割合：248%（前年度比）
まいまい京都	実行委員会形式を継続しつつ、電話受付や各種問合せ等対外的な窓口として機能、また顧客管理を担いました。

■イベント参加者数:　目標延12,000 名

→ 参加者実績:延18,765名

■メールマガジン登録者数:目標5,000 名

→ 登録者実績:3, 600名

(2)トピックス

2013 年度も外部機関との連携による事業実施という方向性を持って取り組みをすすめました。また、事業・イベントに関わる協会スタッフ減らす中で、機動的連携による運営の効率化と事業の質の向上に重点を置いた取り組みを行いました。

昨年以上に様々な団体と連携し、運営を相互に担いながら事業を実施し、イベント参加者数は、前年度実績を下回ったものの目標数を達成することができました。

一方でメールマガジンの登録者につきましては、目標を達成することができませんでした。これは協会として「ユースホステル」が充分に魅力的なコンテンツを揃え、そしてそれらを情報発信できていない結果と思われます。今後は、魅力あるYHのコンテンツ開発と新しい情報発信ツール（facebook等）とを連動させ、認知度の向上に取り組んでまいります。

1. ユースホステル運動普及活動ならびに体験活動

学生を中心とした実行委員会を組織し、旅のイベント「旅 days2013」を開催しました。大規模劇場型の旅イベントが数多く各地で開催される中で、ゲストから参加者への一方通行の投げかけではなく、ゲストと参加者との双方向の「対話によるコミュニケーション」を重視しました。それは「旅先での人との出会い」が、物見遊山的な観光やショッピング等を目的とした旅とは別の楽しさがあり、そこからの学び（異文化理解、相互理解、自己理解、そして世界の多様性に触れる体験）が、自己の成長につながるという事を間接的に理解してもらう取り組みでした。そして、ユースホステル運動本来のターゲットである大学生を中心とした若者層にアプローチできた事業となりました。

2. ユースホステルを通じた交流創出事業

宇多野ユースホステルで毎日実施している交流促進事業の「エブリデイワン」は、従来協会スタッフ主導で行ってきましたが、今年度は各種イベントを外部協力者主導で行う形式に移行させました。より魅力的な内容や専門性の高いイベントとなるよう継続的に関わってくれる地域のボランティアとの協働とあわせ、新規の協力者の発掘にも取組みました。結果前年度比 248%増となる 362 名の外部協力者に運営を担っていただきました。

事業概況：ユースホステル活動および関連活動

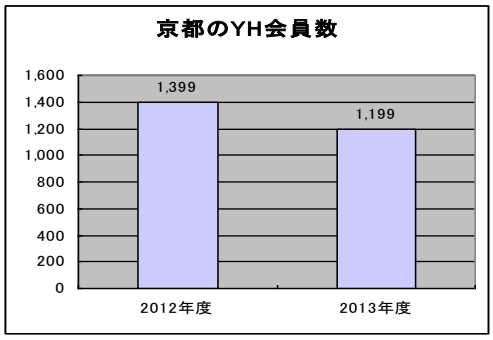
3. 地域や海外と関わる旅（ホステリング）事業

旅行事業に関しては、ユースホステルならではの旅行商品の開発・実施までには至っておりません。しかしながら海外インターンシッププログラムの試行として、宇多野ユースホステルと姉妹提携しているオーストラリア・シドニーのレイルウェイスクエアユースホステルへ、アルバイトスタッフの受入れ協力をお願いし、約 2 週間の現地での体験活動が実現できました。今回の経験内容とつながりを今後のプログラム開発に活かしていきたいと考えております。

まち歩きイベント「まいまい京都」は、引き続き好評を得ており、リピーターも増えて募集開始と同時に定員に達するコースが多くなっております。こうした従来の募集型のほかに依頼型のオーダーツアーも試行導入をはじめ、他府県からの視察対応もありました。更に今後はまち歩きツアーだけではなく、より深い京都を学べるような講座やワークショップ形式のイベントの開催などを検討しております。

2）京都府下の YH 会員数や YH 利用実績

1. 京都の YH 会員数：1，199名



2. 京都府下の YH 利用状況

YH 名	2012 年度	2013 年度	増減
宇多野 YH	35,748	36,410	662
天橋立 YH	3,058	3,381	323
美山 YH	944	960	16
清水 YH	1,830	1,903	73
はしうど荘 YH	64	156	92
計	41,644	42,810	1,166

Ⅱ．ユースホステル関連活動

（1）目標と達成状況

■ 夕食目標数：19,050 食

→提供数：19,547 食（達成率：102.6%）

■ 朝食目標数：29,690 食

→提供数：28,696 食（達成率：96.7%）

■ アンケート目標満足度評価：4.0 点以上

→評価：4.20 点（夕食）

：4.36 点（朝食）

（2）トピックス

1. 食の安全安心の徹底

食事提供については、9 月に食中毒事故を発生し、宿泊者や関係各位に多大なご迷惑とご心配をお掛けしました。

発生以降、再発防止に向けて速やかに対策を講じ、現在も高い衛生管理意識と緊張感を持って、日々の業務に当たっております。

2. 過去最高の食事提供数

食事の提供数は、夕食・朝食共に過去の実績を上回ることが出来ました。摂取率については、夕食53.7%、朝食78.8%となりました。

また、もう一つの目標である独自アンケート評価でも、夕朝食共に目標数値を上回り、「どちらかと言うと悪い」や「悪い」というマイナス評価は、夕食が6.4%、朝食が5.0%に止まりました。

事業概況：指定管理事業

Ⅰ．宇多野ユースホステル

（1）目標と達成状況う

■年間目標：36,000 名（稼働率：58.0%）

→宿泊実績：36,410 名（稼働率：58.7%）

目標達成率：101.1%

対 2012 年度：　662 名増
対 2011 年度：3,665 名増
対 2010 年度：2,224 名増
対 2009 年度：3,415 名増

■国際ユースホステル連盟利用者満足度評価

“Most Comfortable & Most Friendly 部門”でのダブル受賞

→ Most Comfortable 部門：2 位
Most Friendly 部門：5 位

■利用料金制を想定した施設運営へのシフト

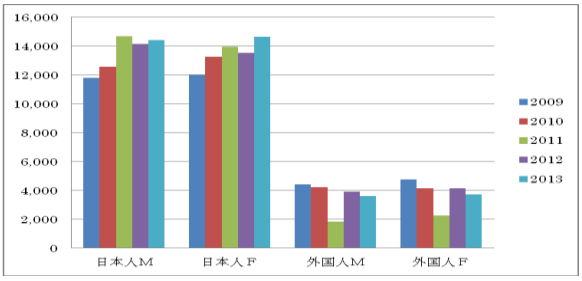
→ 業務の効率化や標準運営体制の確立に着手

（2）トピックス

1．年間目標宿泊者数を達成

今年度は、宿泊実績の目標を36,000名に設定し、日々の運営を行ってきました。その結果、年間の目標実績を410名上回り、36,410名となりました。この実績は、1977年以降で最高の実績となりました。

日本人の宿泊については順調に増加している半面、外国人の宿泊については、減少の傾向が見られます。



外国人の地域別の前年度比較を見ると、主要な北米やヨーロッパ、オセアニアは前年度を下回り、韓国や中国などの東アジアが、年明けから増加し、前年度を上回りました。

特にタイやシンガポールなどの東南アジアの宿泊が大きく増加しました。訪日ビザの免除や緩和、LCCの就航などにより、前年度の3倍以上の宿泊数（2012年度194名⇒2013年度614名）となりました。

国際色豊かな雰囲気の中で、滞在中に宿泊者同士が交流を楽しめることが魅力の一つになるよう、外国人宿泊者を増やす取り組みに、更に力を注いでまいります。

2．引き続き、高い滞在満足度を提供

評価指標として掲げていたComfortable部門＆Friendly部門世界1位は、達成出来ませんでした。特に、Comfortable部門では僅差で1位の座を逃し、非常に残念な結果となりました。

しかし、総合評価では93%、Location部門を除く各部門では95%～97%の高い評価を得ており、引き続きハードとソフトの両面の質を高め、より満足度の高い滞在を提供してまいります。

	総　合	ﾌﾚﾝﾄﾞﾘｰ	快適さ
宇多野YH	93%	97%	95%
最高点	96%	99%	95%
国内平均点	88%	91%	85%

また、国際 YH 連盟が世界的に進める品質管理システム（HI-Q）の承認を受け、より一層質の高い施設運営に努めてまいります。

（第 2 位賞状受賞）

3．新しい運営形態を想定した取り組み

日常業務の棚卸を行い、宿泊者の快適性や利便性を損なわないことを前提に、業務の再整理を行いました。

効率的で適正な標準運営体制の確立に向けて取り組みを行いました。

Ⅱ. 天橋立ユースホステル

今年度、天橋立ユースホステルでは新しいスタッフでの運営がスタートしました。これまでの取組みを発展させながら地域の体験や滞在交流型観光等を推進し、持続可能なユースホステルモデルの確立を目指して積極的な取り組みを行いました。

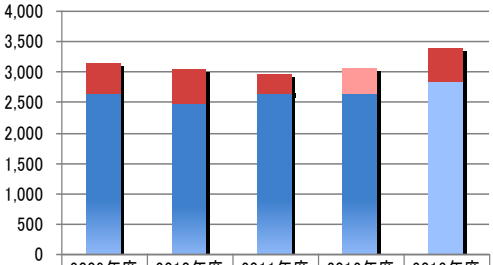
(1)目標と達成状況

■年間目標宿泊者数:3, 300名

→実績:3, 381名 (目標達成率 102.5%)

■外国人年間目標宿泊者数:480名

→実績: 561名 (目標達成率 116.9%)



	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
外国人	482	526	332	436	561
日本人	2,641	2,496	2,633	2,622	2,820

■その他、年度目標:

◎ 地域の活動団体や施設、観光協会と連携した誘致取組み 3 回以上 →実績 4 回

◎ 地域の新しい体験プログラムやツアー等の開拓 2件以上 →実績 2 件

◎ 新しい利用団体の誘致 3 件以上 →実績 5 件

◎ 地域の資源やプログラムを活かした利用促進 100 人以上 →実績 160 名

(2)トピック

1) 安定したユースホステル運営の確立

持続可能な利用実績や収入に合った運営体制を確立するため、組織内部の各担当や地域と連携や情報の共有を図り、より効率的な運営を目指した取り組みを行いました。

・業務環境の整理(粗大ごみの処理)(9 月・11 月)

・老朽化した施設の改修・修繕に向け、一級建築士による施設点検(11 月)

・市担当課の現場チェック(12 月)及び話し合い(1 月～継続中)

(YHの大型ゴミ処理)

2) 地域資源を活用した体験やツアー、プログラムの開発・活用

エコツアーやカヌー・定置網体験など、地域の活動団体(「宮津市エコツーリズム協議会」「丹後海と星が見える丘公園」「養老漁業」等)や天橋立観光協会と連携し、プログラムの実施や誘致に取り組みました。

1. 自然体験カレンダー「ここよみ」の発行や情報発信、広報の実施
2. 地域住民・団体との関係を強化し、「里山未来形プロジェクト」や「ココ丹後」等、地元発のイベントを通じてユースホステルの認知度を向上
3. 旅行者と住民の交流機会作りとして、地域のイベンターを募集

(カヌー体験教室)

事業概況：指定管理事業

【事業参加者】

- エコツアーの参加手配 17 名
- カヌー体験参加者 27 名
- 定置網体験参加者 30 名
- 朝獲れ刺身やかにパックなどの特別料理提供 延べ 490 名
- 燈籠流しや初詣等、地域の行事にあわせたオリジナルイベント 43 名
- 里山未来形プロジェクト 34 名
- 「ココ丹後」との連携による宿泊 13 名

（花火と灯ろう流し）

（子ども体験・伊根漁港）

3） 各種団体や教育機関を対象とした宿泊誘致

「モンベルフェア」への参加広報や「土曜塾」等での広報、体験学習プログラム案内冊子などを活動団体等へ送付

（モンベルフェアーのYH紹介ブース）

【主な利用団体】

- 洛星高校料理研究部の体験学習　14 名
- ネイチャーキッズ　18 名
- ポジティブアーズネイチャーズスクール　42 名
- 鳥取大学、若狭湾青少年自然の家の国際交流事業受け入れ　延べ 78 名
- 千葉大学菅原ゼミ（丹後郷土資料館フィールドワーク受け入れ）　延べ 35 名
- NPO 持続ネットの子ども体験プログラム　16 名
- 大阪府立大学学生グループ　56 名

4） 京都建築大学校との連携強化

開所 50 年を迎えたユースホステルの今後を見据え、京都建築大学校と連携した施設改修プラン作りや魅力ある地域資源の掘り起こし、ユースホステル周辺の片付けなどのフィールドワーク等を行い、延べ参加者が 22 名（6 月、7 月実施）となりました。

5） 品質管理マネージメントシステム（HI-Q）等の活用

国際YH連盟が取り組む品質管理マネージメントシステムを活用した運営の質向上の取り組みについては、小規模ユースホステル向けのマネージメントシステムの整備や情報の遅れ、不足などもあり、国際YH連盟のスケジュールを再度確認して、計画、実行を再検討します。

6） 外国人旅行者の誘致

天橋立・伊根がミシュラングリーンガイドに掲載紹介された他、政府観光局の外国人観光案内所として天橋立駅の観光案内所が認定され、地域案内情報の充実や地域での取組みと連携した誘致活動を行いました。

1． 観光協会の外国人向けモニターバス事業とも連携した誘致広報の実施。
2． 関西や中部、首都圏の各ユースホステルやゲストハウスへの案内送付
3． 海外等の予約サイトを活用した誘致の取組みPR
4． 海外からの研修生を受け入れ、学校・観光協会などを訪問し、地域交流や外国人の視点からの地域案内の改善などを提案

ミシュランガイド掲載から半年

天橋立、外国人案内が2.5倍に

ユースホステル3割増

国際案内所指定も寄与

北近畿3カ所の

（北近畿経済新聞 8 月 21 日）

事業概況：指定管理事業

【海外研修生の受け入れ】　　7名（7月）【P】

〔ロシア・フランス・スロベニア各１名、日本人コーディネーター1名（CIEE）、台湾３名（台南科技大学）〕

（府中小学校での交流）

【予約サイトによる宿泊予約実績】　（延べ泊数）

予約サイト名	2012 年度	2013 年度	増減
楽　天	268	332	64
HI	64	101	37
Booking.com	22	62	40
ﾎｽﾃﾙ･ﾜｰﾙﾄﾞ	14	54	40
AGODA	17	45	28
HIS	8	22	14
計	393	616	223

＜その他＞

1. マスコミ紹介記事掲載等

ア）新聞掲載４回

イ）テレビ　６月１日　朝日放送「おはよう朝日　土曜日です」（カヌー体験について）

ウ）ラジオ　２月５日　KBS 京都「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」（地域のイベンター募集）

エ）フェイスブック等を活用した地域の情報発信の充実

外国人客に夜の交流体験を

天橋立YH　協力者募る

音楽や書道、手品など

丹後中丹

オ）るるぶWebページでの広告掲載やサイクリング＆ウォーキングマップの活用

カ）TAN・TANロングライドや天橋立ツーディ・ウォーク等のイベントに合わせた宿泊誘致

■宿泊実績データー

項　目	2012年度		2013年度	
	総宿泊	外国人	総宿泊	外国人
4月	159	15	227	60
5月	216	15	283	50
6月	148	19	203	77
7月	323	132	402	95
8月	728	45	804	59
9月	242	35	217	28
上半期計	1,816	261	2,136	369
10月	286	56	202	32
11月	216	17	255	30
12月	218	39	195	40
1月	169	7	203	14
2月	99	23	131	15
3月	254	34	259	61
下半期計	1,242	175	1,245	192
総　計	3,058	436	3,381	561

財務状況

Ⅰ．概要

（1）決算概況

2013年度は、緊急雇用事業がなくなりましたが、宇多野ユースホステルの宿泊利用が伸びたことにより、指定管理のインセンティブ協定で指定管理料が増額された他、関連の食事収入の伸びや機動的な業務の処理や対応による固定経費などの抑制、食中毒対応経費の保険からの補填、フロントレジシステム開発の遅れによるシステム投資の翌年度への繰越などの結果、当期正味財産増減額は13,364,665円となりました。

また、個別の会計では、各会計からの管理業務負担額の不足などにより、一般会計の管理部門は赤字となりました。

(2)公益目的財産額について

2013 年度の公益活動による公益目的財産収支差額は、青少年事業や天橋立ユースホステルの運営では、公益活動の支出が上回ったものの、宇多野ユースホステル運営会計では、収入が上回り黒字となりました。その為、公益活動全体の公益目的収支差額はプラスの黒字となり、年度末の公益目的財産額は、3,670,734 円増加し51,322,228 円となりました。

公益目的財産額が 0 になるまでの支出計画期間が当初契約より延びることになります。

【公益目的事業】

	11年度	12 年度	13 年度
公益目的財産額（期首）	56, 453, 806	49, 227, 476	47, 651, 494
公益目的収支差額	-7, 226, 330	-1, 575, 982	3, 670, 734
公益目的財産額（期末）	49, 227, 476	47, 651, 494	51, 322, 228

Ⅱ．経営実績の推移

科　　目	09 年度実績	10 年度実績	11 年度実績	12 年度実績	13 年度実績
経常収益（収入）	209, 182, 000	198, 231, 000	203, 040, 000	200, 424, 367	194, 365, 919
事業推進業務	63, 257, 000	64, 854, 000	62, 046, 000	58, 827, 653	62, 886, 837
指定管理業務	134, 195, 000	123, 513, 000	128, 861, 000	129, 336, 641	120, 080, 629
組織運営業務	11, 730, 000	9, 864, 000	12, 133, 000	12, 260, 073	11, 398, 453
経常費用（費用）	192, 973, 000	193, 201, 000	203, 620, 000	195, 499, 598	181, 001, 254
事業推進業務	46, 535, 000	57, 218, 000	61, 451, 000	55, 982, 511	51, 584, 689
指定管理業務	132, 308, 000	122, 361, 000	127, 583, 000	124, 453, 614	115, 169, 662
組織運営業務	14, 130, 000	13, 622, 000	14, 586, 000	15, 063, 473	14, 246, 903
当期経常増減額（経常利益）	16, 209, 000	5, 030, 000	-580, 000	4, 924, 769	13, 364, 665
経常外増減額（経常外利益）	-6, 870, 000	0	-16, 925, 000	0	-3
当期正味財産増加額（純利益）	9, 339, 000	5, 030, 000	-17, 505, 000	4, 924, 769	13, 364, 662
正味財産期末残高	61, 935, 663	66, 965, 663	49, 460, 663	54, 385, 432	67, 750, 094

※2011 年度は年度途中で法人が移行し、4 月-7 月決算と 8 月-3 月決算となったが、上記の事績では 4 月－3 月で比較

※2011 年度の経常外増減は、有価証券（国際復興開発銀行債）の売却損を計上